

第一朗読 エレミヤの預言 20:7-9

主よ、あなたがわたしを惑わし わたしは惑わされてあなたに捕らえられました。
あなたの勝ちです。
わたしは一日中、笑い者にされ 人が皆、わたしを嘲ります。
わたしが語ろうとすれば、それは嘆きとなり
「不法だ、暴力だ」と叫ばずにはいられません。
主の言葉のゆえに、わたしは一日中恥とそしりを受けねばなりません。
主の名を口にすまい もうその名によって語るまい、と思っても
主の言葉は、わたしの心の中 骨の中に閉じ込められて火のように燃え上がります。
押さえつけておこうとして わたしは疲れ果てました。
わたしの負けです。

第二朗読 使徒パウロのローマの教会への手紙 12:1-2

兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なものであるかをわきまえるようになりなさい。

福音朗読 マタイによる福音 16:21-27

(そのとき、) イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。
「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。」

召命のための祈り（第5主日）

恵み豊かな父よ、あなたが遣わされた御子キリストは、
人びとの救いのためにガリラヤで福音宣教を始められたとき、
将来、教会に奉仕する弟子たちを召し出し、教え導き、
聖霊によって、強めてくださいました。
キリストは、今もその呼びかけを続けておられ、
洗礼・堅信・聖体の恵みによって信徒として生きる人びとの中から、
叙階や誓願の恵みを受けて司祭、修道者として生涯をささげる人びとを求めています。
どうか、広島教区のために、キリストの呼びかけに応える人びとを増やしてください。
また、それぞれの召命を生きるわたしたちが互いに助け合って、
教会と社会に奉仕することができるよう導いてください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。